

震災の記録を図書館に

～岩手県立図書館震災関連資料コーナーの
紹介と震災関連資料収集協力をお願い～

■県立図書館震災関連資料コーナー

2011年10月21日、東日本大震災の記録を後世に伝えるため、「震災関連資料コーナー」を設置しました。

コーナーには、東日本大震災に関する図書、特集を組んだ雑誌、新聞、行政資料、避難所だより、ボランティアニュースなどの資料を配架しています。これに加えて、パンフレット、チラシなどの一枚もの資料の整理作業も進めています。2月26日時点で整理され震災コーナーに配架されている冊数は図書が696冊、雑誌が528冊となっています。



県立図書館震災資料コーナー

今後は調査報告書、復興計画書のほか書誌を作成されていない一枚もの資料などの整理を進め、順次ホームページで目録データを公開していきます。一枚もの資料では、被災地内で配布された「ボランティアセンターを開設しました!」「炊き出しのお知らせ」「復興計画についてご意見を募集します」といった被災者へ生活情報を伝えるお知らせ、手書きの「仮設店舗マップ」、復興シンポジウムやチャリティコンサートの催事など多岐多様な資料が生み出されています。

このような取り組みの事例としては、1995年1月兵庫県南部を襲った阪神・淡路大震災を契機にできた兵庫県立図書館「フェニックス・ライブラリー」、神戸市立中央図書館「1.17 文庫」、神戸大学附属図書館「震災文庫」などがあります。なかでも「震災文庫」は、被災地にある図書館の責務として震災資料を網羅的に収集し、その数は約49,000点（2012年2月現在）にもなります。さらにこれらの資料の一部はデジタルアーカイブで公開されています。

「いったいどうやって、これだけ多くの震災資料を集

めることができたのだろうか」という疑問を震災文庫を立ち上げた職員にお伺いしたところ、「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」の活動についてお話して下さいました。

図書館や史料館等の有志によるこのネットワークには、10数館の職員が集まり、震災に関する記録資料の収集についての現状や問題点、取り組み方などを話し合い、3～4年にわたって情報交換会を続け、公共図書館だけでなく大学図書館やボランティア団体、企業や行政など、多様な機関が参画しています。館種を超えたつながりを持つことによって、図書館員の立場ではなかなか気が付かないことを指摘されることもあったそうです。

例えば、「図書館には、きちんと製本されたものしか置けないのではないか」という先入観を持っている人も少なからずいることを受けて、一枚ものであっても大切な資料であることを、より具体的な内容で広報していくことの重要性を感じたと言います。一枚もの資料を図書館資料として見せることで、「こういったものも集めているんだ」というアピールにつながり、「こういうものなら、うちにもあるよ」というような形で、次第に資料が集まってくるようになったということでした。



仮設住宅情報紙等

■震災関連資料を図書館に

昨年3月11日に発生した東日本大震災から一年が経過し、震災発生直後から現在まで、被害状況や救援活動、二次災害、復興へ向けての取り組みなど、多くの資料が生み出されています。震災の記録を後世に残していくという目的及び防災対策に役立てていただくためにも、県立図書館では震災に関する貴重な資料を継続して集めております。しかしこの広い岩手県で、資料を網羅的に集めることは至難の業です。まして、「ここまでやればよい」という明確なゴールがあるわけではありません。各地域の情報や資料の提供など、今後どうぞ県内図書館の皆様には、息の長いご協力を心よりお願い申し上げます。